

## はたらっく・ざま 1年間の活動から

座間市就労準備支援事業「はたらっく・ざま」の活動・事業3年目に入ります！

### <利用者の状況>

これまで2年半で32人が「はたらっく・ざま」を利用し、そのうち11人が短時間ワークですが、座間市内の事業所に就労することができました。働くことへの不安を抱えながらも、自分の力で決断し歩き始めたことをうれしく思っています。社会経験が少ない彼ら彼女らにとって、働けても職場に慣れるための山がいくつもあり緊張の日々が続くため、伴走支援の一環として定着支援を開始しました。一方で、単純な悩みだけでなく家族の問題もあり課題が容易に解決できない人、障害者手帳を取得し福祉サービスの利用となった人、就労しても不安感がぬぐえない利用者を医療につなげたケース等も出て来て、個別対応の重要性を再認識しました。

利用者の年代も10代から60代へと幅が広がっています。困窮者から生活保護受給者の利用も増えています。スタートした当初の不登校・ひきこもり経験をもった若者から、学歴もあり就労経験もあるが続かない人、働く意欲が見えない、連絡なしに休む、連絡がつかないなど関わりが難しい人、さらに日本語が話せない外国籍の若者など就労以前の課題が明らかな利用者が多くなりこれまでの支援プログラムでは対応できない人たちが増え、次年度の課題となりました。

### <共同企業体の連携>

生活クラブとの共同企業体として受託した事業の強みを発揮できる可能性を見出せた年になりました。相模原センター、あやせ総合センター、相武台デポでは途切れなく実習生を受け入れてくださり、利用者も体験を通して自信を持つことができました。季節講座では、さがみ生活クラブ組合員が講師となって共に行事を楽しみました。組合員が自然にふるまっていたく事で、人が苦手な利用者も緊張することなく接することができました。また、「はたらっく食堂」に、デポから食材の寄付などをいただき、安価でおいしいお

昼を提供することができてます。家族がいても孤立している、単身で地域とのつながつながりも少ない利用者が、「はたらっく・ざま」を通して、信頼できる大人に出会う機会が増え、社会に出ることへの不安が減っています。このような連携は、共同企業体だからこそ可能となり、組合員＝座間市民の理解と共感も徐々に広がっていることを確信しています。

### <組合員対象のセミナーの開催>

1月末と2月初めに組合員対象に「働いたことがなく就労経験や社会体験が少ない若者をサポートするセミナー」を実施しました。延べ参加人数31人、ワークショップを通して、「はたらっく・ざま」への理解と共感を高める事ができました。参加した組合員は、元養護学校の先生、現役のキャリアコンサルタント、ホームレス支援に活動に関わるなど主体的な人が多く、サポーターへの関心もあり「はたらっく・ざま」の新たな広がりを期待しています。

### <座間市との連携>

毎年実施している座間市主催のひきこもり傾向のある当事者やその家族にむけた「就労準備セミナー」で「はたらっく・ざま」の説明をしました。今年は、「はたらっく・ざま」の利用者がスピーカーになって報告するなど、昨年より一歩前進した組み立てになり、参加者にはわかりやすく好評でした。座間市援護課とは情報の共有から問題解決まで連携・協力関係を構築中です。

### <その他>

昨年9月に「はたらっく・ざま」の活動が評価され、日本協同組合学会から「日本協同組合学会実践賞」をいただきました。タウンニュースから取材があり10月号に掲載されました。（おかだ ゆりこ）

